



消防団だより

第 8 号

発 行

富士市消防団

富士市永田町1丁目100番地

電話 (0545) 51-0123

内線 (3333)

FAX (0545) 53-4633

“自分たちの街は自分たちで守る”

伝統を支える消防団

消防団長 諸 星光 男



又、近年の社会経済情勢の変化と共に、消防団を取り巻く環境は大きく変化し、消防技術の科学化・高度化の中で時代に即した対応を推進しているところでもあります。

本市の消防力は、関係各位のご尽力により、近代的な消防に整備されてまいりましたが、残念ながら火災の発生件数は依然として増加傾向にあるのも事実です。火災は、市民の生命と財産を一瞬のうちに奪う非常に恐ろしいものです。

消防の職務は消防組織法第一条にもあるように、「国民の生命、身体及び財産を火災から保護するとともに、水災又は地震等の災害を防除し、及びこれらの災害に因る被害を軽減する」となされており、災害の防除も重要なものとなっております。あらゆる面で住民の皆様の理解と協力が必要であり、交流を図って一層の信頼関係を保たなければなりません。消防団だよりが住民と消防団員を結ぶかけ橋になればと期待します。終りに日夜を分かたぬ出場又は訓練にご尽力されている団員各位に衷心より厚くお礼申し上げます。

富士市消防の歴史は古く江戸消防を習った火防組から発し、先人が築かれた伝統に支えられて、今の消防団郷土愛護の精神に燃え、その使命を賭して・・・！ 市民の目にはどのような感覚で受け止められ、又どの様な印象付けがされているのか。我々消防団運営において、住民意識を無視する事は出来ない。消防団員は、各自の職業に従事しながら地域防災のため地域に密着した災害予防活動、災害防衛活動に積極的に従事しており、団員各位もそれを自負しているところでもある。

県大会に出場して

第十四分団 団員 斉藤 幸治

私が消防団に入団して、早いもので一年が過ぎました。この一年間に体験した消防団の活動の中で一番心に残っているのは、消防操法大会に小型ポンプ操法三番員として県大会に出場出来たことです。

私は、初めから要員だったわけではなく、最初はただ先輩の練習に参加して見ているだけで、たまにホースを巻くぐらいしか出来ませんでした。この頃は、操法はおろか消防団の活動がほとんど分かっておらず、まさか自分が要員になるとは夢にも思っていませんでした。

その後、練習の成果が発揮され富士市の大会で、十四分団は見事優勝することが出来ました。その夜、祝賀会の席で先輩から突然「幸治、支部大会に出てくれないか？」と言われ、驚きました。そのころの先輩は、腰を痛めていて無理をして市の大会に出場していたのです。

いろいろ考えましたが、先輩からもらったこのチャンスは自分にとって大きなプラスになる、どこまで出来るか分からないが、頑張ってみようと思いい交代させてもらいました。ここから私の要員としての再スタート

トで、他の要員や指導員の皆様にならべく迷惑がからない様にと、一週間でもとりあえず流せるように毎晩遅くまで練習しました。このときに熱心に何度も繰り返し根気よく教えてくれた先輩の皆様、本当にありがとうございました。

その後、なんとほか他の要員との練習を積み重ねて支部大会で優勝し、県大会に出場することが出来ました。県大会では短かった練習の中で学んだことを精一杯出して、悔いの残らない操法が出来て満足しています。この貴重な体験を入団一年目で体験出来たことは、本当によかったと思います。この体験はこれからの消防団活動の中で、きつと生かされていくと思います。

最後に、私をここまで育ててくれた十四分団の皆様並びに指導員の皆様に心より感謝しています。本当にありがとうございました。

平成九年度全国統一防火標語

つけた火はちゃんと消すまであなたの火



県査閲大会

第五分団 班長 渡辺 美明

入団して十四年、今年、訓練礼式の選手に選ばれ、富士市訓練大会では、我が第二方面隊が優勝しました。

七月の富士支部査閲大会出場の際が六月から、スニーカーと脚半スタイルで、夜は小学校の土のグラウンドで、日曜日の早朝には、大会会場で訓練を積み重ね、そして、支部大会では富士市消防団が見事に優勝できました。

私が入団以来初めてのことで、県査閲大会出場で、仕事、地域活動

と何かと忙しい時期だったので大変な一ヶ月でした。訓練は夜七時から九時までを週に三回、指導員の方々

による細かい足の開く角度、手の振る角度のチェックが続き、日曜日には朝五時から運動場の芝生での訓練を積み重ねました。

しかし、残念ながら県大会では入賞できませんでした。四月から八月まで第二方面隊訓練礼式の選手の皆様本当にご苦労さまでした。

市訓練大会出場

第十一分団 部長 山本 博一

平成九年度富士市消防団訓練大会に第三方面隊訓練礼式の指揮者として出場することを分団長から命ぜられました。礼式の選手としての出場自体が十数年前になるので、自分に勤まるか自信がなかったのですが、何事にも挑戦してみようという気持ちで引き受けました。

分団役員団員の協力で小学校のグラウンドにて訓練が始まりました。

公設卸売市場での訓練も始まり、指導員の熱意ある指導に、同じことを何回も注意を受け、号令指揮位置などとまどうことばかりで、自分に指揮者が勤まるのか改めて不安を覚えましたが、「習うより慣れよ」と、大きな目標指して、訓練に訓練を

重ねました。

大会の当日は、他の選手に迷惑をかけるように、失敗のないようにと不安と緊張のなか訓練大会は始まりました。

最初の号令で緊張もなくなり無事終了することができました。一糸乱れずとは行きませんが、訓練の成果は十分に発揮できたと思えます。第三方面隊の期待に添うことはできませんでしたが、この訓練を通して他分団員の方々と交流等いろいろ多くを学ぶことができました。

これからの消防団活動にこの訓練で得たことを生かし、精一杯取り組んで行きたいと考えております。



富士支部大会

第七分団 班長 鈴木 篤

七月六日の富士支部査閲大会は、朝から天候に恵まれましたが、勝利には恵まれませんでした。

昨年からは訓練を重ねましたが大会が近づくにつれ不安でいっぱいになりました。自分自身も距離感がだんだん掴めなくなったり、選手が時間にそろわなかったこともありましたが、それでも、みんな一生懸命頑張りました。

わが分団は過去に二回、芝川町消防団第一分団に敗れています。そのことは全く気になりませんでした。それより、二回の雪辱を今回果たそうとする意気込みのほうが強かったと思います。しかし、思うようにいかず全体的に空回りしている感じがした。

やはり、いまになって考えるとまだまだ訓練不足だったのかなと思いました。

それと、長い間夕方忙しい時間に遠いところから指導に駆け付けて下さった指導員の方々、分団長、副分団長をはじめ分団員の皆様には大変感謝しています。自分の力が至らないため、このような結果になりたいへん申し訳なく思っています。またチャンスがあればチャレンジしたいと思えます。



市訓練大会

第二十二分団 班長 岡崎 八十

今大会では小型ポンプ操法の指揮者となりました。

訓練を重ねるにつれ選手それぞれは気持ちばかりが焦り、うまく行かず、又、大会が近づくにつれ早朝訓練や夜遅くまでと練習量が増える中で色々悩み、挫折感に見舞われましたが、分団長をはじめ分団の方々の励ましのお陰で大会にはほぼベストに近い状態で臨めました。選手一人

一人が第二十二分団の代表として訓練の成果を発揮し頑張りましたが、残念ながら入賞することができませんでした。私個人は、優秀賞をいただきましたが、今までの最高のできだったと思っていたのに残念で仕方ありませんでした。分団全員の協力に申し訳ない気持ちでいっぱいでした。それでも大会後に「皆、よく頑張った、入賞は逃がしたが今日

が一番良かった。」と、ほめていただき、その言葉で悔やし涙が出ましたが、結果がついてこなかったのが今大会で一番の心残りでした。この気持ちを忘れることなく次回の選手に頑張ってもらいたいと思います。最後に、分団の方々や家族の協力が無ければできないことでした。又、各指導員の方々にも色々ご指導をいただき本当にありがとうございました。

無念の訓練大会

第十七分団 団員 遠藤 競

私がそもそも消防団に入ったのは、父が県議会議員の職に付いているため、後援会の方々からの強い要望もあり、やむをえず入団したのが正直な気持ちでした。それまでは、消防団のイメージもあまり良いものではなく、訓練の厳しさも話しに聞いており内心不安でした。

そんな私も入団してはや四年となり、すっかり分団にも溶け込み訓練大会にも出場させてもらえるようになりました。

一昨年は訓練礼式の部で第五方面隊の一員として出場し、優勝するこ

とができました。苦しい訓練の毎日でしたが、社会人になってこのような緊張感と終わってからの充実感、他では味わえないものだと思います。

今年にはポンプ車操法の選手として起用され、連日連夜に亘り訓練にあけられました。先輩方が築いてきた「十七分団の伝統」があり、かなりのプレッシャーを感じながらも指導して下さる方々の激を一つ一つ受け止め、自分のものにしていこうと努力しました。

しかし、大会の二週間前になって訓練中に体調を崩し、途中でリタイアしてしまいました。それからは、苦しい訓練の毎日でしたが、社会人になってこのような緊張感と終わってからの充実感、他では味わえないものだと思います。

県査閲大会

県指導員 分団長 土田 松男

自治体消防五十年記念大会も盛大の内に終り、いわゆる空操法によるポンプ車及び小型ポンプ操法、小隊訓練としての二十人規模の訓練礼式は、平成九年度で区切りとなり、平成十一年度以降の県査閲大会の種目については、(財)日本消防協会及び消防庁の考え方に従うことになりました。

その為にいわゆる水出し操法への期待もあることから、全国大会で優秀な成績を収めた近隣県の消防団を訪問し、普段の訓練の実態を把握し、(財)日本消防協会及び国の方針が示されるまでの間は、各支部及び消

防団の責任において、現行の方式による訓練を実施します。

訓練礼式は、全国大会でも実施されていなくてもあり、存続に対して疑義が出されているが、その必要性についてはだれも否定しないと思われ、共通の認識を持つ近隣県の消防団の訓練礼式にかかわる普段の実態を調査すべきであると思えます。

ポンプ車操法及び小型ポンプ操法においても、いわゆる空操法であるため全国大会に準じた水出し操法を望む意見も出されています。

アしてしまいました。それから一週間は他の選手や分団の皆さんへのすまなさと、自己管理ができなかったことへの情けなさで落ち込みました。その後体調も回復し、訓練に合流しましたが、何か後ろめたさが残り、腰が引けているような感じでした。

しかし、他の隊員の熱意と大会への執念を感じると奥歯に挟まっていたものがとれたように皆と一緒に走り回ることができました。

大会の当日、入賞こそ逃しましたが、今までにない素晴らしい操法を行うことができ、隊員はもとより十七分団全員が笑顔で大会を終えることができました。

今大会は無念の訓練大会でしたが、次回の訓練大会ではあの感動と充実感を味わうためによりいっそう努力します。

市訓練大会

第十六分団 団員 望月 英宏

私は消防団に入ってまだ三年の団員ですが、市訓練大会ではポンプ車操法の二番員に選んで頂きました。

初めての訓練では、ホースの担ぎ方すら分からなく、すべてが難しく感じすっきり自信を無くしてしまいました。

しかし、分団長をはじめ先輩方の事細かいご指導をいただき、二ヶ月後にはなんとかさまになってきました。

大会当日は、出場順がかなり後だったので待っている間緊張と興奮でガチガチに体が固まっていました。

ポンプ車操法の三番員として市訓練大会に出場しました。

選手として出場するからには、分団の代表であり、また、他の選手に迷惑がからぬように、一生懸命頑張りました。

最初は、言われたことが、頭では理解できても自分の思い通りに体が動かずくさったこともありましたが、しかし、練習を重ねるにつれて、体が自然に動くようになり、自分の技術が向上して行くのが感じられました。

ポンプ車操法は、個人の技術はもと

選手に選ばれて

第一分団 団員 丸山 功雄

もちろん大切ですが、選手全員が目標に向かって助け合い、励ましあって進んで行くことだと感じました。

練習での適度な緊張感、分団長を始め分団員の皆さんが整えてくれた環境で練習し大会に全力投球できました。

選手に選ばれて本当に勉強になりました。とても刺激があり充実した日々だったように思います。



私の消防団活動

第三分団 団員 鈴木 一孝

早いもので消防団に入団して六年目を向かえました。

入団のきっかけは、たわいもなく近所の幼なじみに誘われて一緒に入団しました。「社会奉仕とか、ボランティア」の意識もなく、消防団に対する知識もままの入団でした。

我が第三分団は、上中詰所と日吉詰所の二ヶ所あります。団員総数も五十名弱と大所帯で、多様な職種の人で構成されており、話題にはこと欠かず、新鮮で楽しい日々が続きました。

そんな日々は過ぎ、市訓練大会が

近付くと選手選抜の話題となりました。

私はポンプ車の選手に抜擢され訓練に励みましたが、足を捻挫してリタイア。やるせなさや皆に迷惑を掛けた申し訳なさでいっぱいでした。

翌年、その悔しさをバネに小型ポンプ操法の選手に志願し、早々から訓練をおこなうものの、その年は大会が延期され翌年に持ち越され、同じメンバーで冬の寒日から真夏の早朝訓練まで、苦しい訓練をチーム一丸となって乗り越えました。

そして、平成七年度の富士市訓練

真剣に訓練をする

第十九分団 団員 古畑 政明

本人は書く時間が無いので、最近古畑家の一員となったカブト虫の「トミー」にインタビューを試みた。

以下、トミーの言葉です。

僕は主人と外に出ないので、外での活動を実際に見たわけでは無い。

今年の五月ごろから急に運動を始めた。どうも、市の訓練大会に選手として出場するらしい。日頃は全く走らない人がちよつと真剣になっていく。百メートルを走るのがいつぱいのようにだ。近くのスーパーマーケットを練習場にして、ほとんどの分団員の協力もあって体力が許す限りスピードも出したようだ。それでも本

人四十路の真っ直中、訓練を三回も続けると足が「ガクツガクツ」となるらしい。分団員は各地点でチェックをし、選手の欠点をすこしづつ直して行く。本人にはけつこう「キツイ」ことだったらしい。

大会の当日は、前日の雨も上がり、どうにか大きな失敗もなく、分団員もホッとしたことだろう。

それから話は変わるが、飼育主の直紀と紫穂に夏休みには私の世話をするように言ってくれ。

大会で見事に優勝し、富士支部大会でも優勝でき、はれて県大会に出場し夢のようでした。これもひとえに良き先輩方のご指導と良きメンバーに恵まれたおかげだと感謝しています。祝賀会で優勝カップでのビール

の味は一生忘れることができません。我が家には、金では買えない表彰状が額に入って座敷に掲げてあります。

こんな忘れられない思いを今度は後輩にと考えています。優勝は素晴らしい事ですが、訓練の思い出はそれ以上に仲間意識を高め、いざという時の連携プレーに威力を発揮するものと思います。

これからは先輩方のご指導を仰ぎ同僚団員や後輩団員とともに地域防災、火災予防につとめ、住民から信頼される消防団員を目指して努力してまいります。

怒りっぽい人は

カルシウム不足

年をとると、変に怒りっぽい人が増えます。それを見て、「ヒステリーだ、いやノイローゼだ、違う、血圧が高いからだ」と人はいいます。

怒りっぽい人の血清を調べるとカルシウム・イオンがいちじるしく減っています。

カルシウムは、骨や歯をつくる重要な栄養素ですが、その他にも、血液が固まる性質、筋肉をのばす性質、酵素の働きを活発にする性質などがあります。

消防まつりとお好み焼き

第十五分団 部長 高野 正仁

我、十五分団の出し物と言え、ここ数年恒例となっている、お好み焼きと金魚すくいです。お好み焼きは、四百枚位を目安として材料をそろえます。

当日、現地では焼く事で精一杯の為、前日の材料刻みから十五分団の消防まつりは始まるのです。中に入れる具を何もかも細かく切らなければならぬので、それはそれは大変な事です。キャベツもいくらか刻んでも、箱の中は一杯にならず、ようやく二十個位切り刻むと、箱の中も山が出来あがってきて、「切ったなあ」という実感になるものの、その頃になると、包丁を持つ手が赤くなっています。材料が切り刻まれると、いよいよ当日を待つばかりとなります。それらの材料他備品を持ち込んで

足すると神経過敏になって怒りやすくなり、怒るとカルシウム・イオンが不足する。その繰り返しで血液は酸性に傾き、細胞を老化させるので、ガンなどの病気にかかりやすくなります。

このように神経系の興奮を抑えるカルシウムは、何に多く含まれているかを見ますと、まず一番が牛乳。次にワカメ、コンブ、チーズ、メザシ、小魚、豆類、アサカサノリ、野菜類に多く含まれています。

カルシウム不足と老化現象は、相関関係にあることがわかります。

の消防まつりの本番は、若手団員が中心となり、焼き販売となるわけです。今年は、焼いても焼いても間に合わず、列が出来るほど大盛況となりました。

「十五分団に行くと、お好み焼きが買える」という市民が増えてきた様にも思います。又、消防まつりで十五分団のお好み焼きを待っている人達の為にも、これからも団員一丸となって頑張つて作ろうと考えています。

それに、退団されたOBの方々の暖かい応援や心配りがあり、消防まつりが盛大に出来たのも先輩方のおかげだと、私達は感謝しています。今年も大勢の団員の参加のもと、無事終了し、ほっとしています。



新型ポンプ車

第六分団 班長 川口 国男

平成九年九月二十九日新車引き渡し式に、出席させて頂きました。富士市長、消防団長以下関係者の見守



るなか第六分団分団長にキーが授与され、ポンプ車の性能及び操作説明を受け、引き続き公園にて放水試験を行い無事終了しました。

今度のポンプ車は馬力アップし、操作手順も少なく、無線等の諸所の設備も新しく、機能美に加え簡素化されて、以前よりも少し大きく見えます。今まで以上に素早い行動と、より良い消火活動ができると期待しています。

また、神戸地区及び周辺地域の火災予防・消火活動に、以前に増してこれからも家族の協力のもと団員一同頑張っていきたいと思えます。関係者の方々が御尽力下さいました。本当にありがとうございます。

サイレンのたびに...

第八分団 家族 高野 朱美

広報の火災のサイレンが鳴り響く。心臓が「ドキン」と音をたてるかのように心拍数が上がるのを感じながら耳をすめます。

私が嫁いでくる前、実家のすぐそばに何年か一度大きな火災を出す工場がありました。

深夜、パチパチと火の粉の音と、近所の人のざわめきで目が覚め窓を開けると真っ赤な火柱が夜空を焦がしている。そんな情景を子供の頃から何度か目のあたりに見えています。

幸い、周囲に隣接する民家はなく、実家とも茶畑を挟んでいましたので炎は広範囲には広がらず、夜間なので人もいないため、建物だけの被害でしたが火災は何もかも失ってしまふ、という恐怖心は子供の頃から頭にこびりついていました。と同時に火災と共に駆け付け、懸命に消火活動をする消防団員の活躍も印象に残っています。

主人が消防団に入団する前までは、消防団員は火災の時だけ出動すれば

楽しかったソフトボール大会

第九分団 班長 池田 康彰



先日行われた消防団のソフトボール大会(スローピッチ、十人制)では、大変楽しく試合ができました。消防団も新入団員の確保がむずかしく、同時に年齢層が高くなり、ソフトボールの選手を集めるのに大変な思いをすることが、この様な形式だと比較的楽に人数を集めることができました。

和気あいあいの試合を見てみると、腰痛で監督をしていた自分も出場したい気持ちになりました。幸いにも第九分団は、準々決勝まで

平成九年中の火災発生状況は、昭和四十一年以降では昭和五十九年の百五十三件に続く二番目に多い年でした。

火災発生状況

出火原因では「たばこ」による火災は減少し、「放火及び放火の疑い」が昨年の二倍以上の五十件となりました。

火災による死者は、前年に比べ半分、自損行為によるもの二名、負傷者は四名減の二十名となっております。

で勝ち進み三試合行ったので、全員が幾度か出場することができました。その中で思ったことは、勝敗にこだわらず団員が自主的に控えの選手と交代し、全員出場という気持ちを持っていくれたことです。

消防団員は、日常生活ではほとんどやらない敬礼などの規律訓練をしているせい、他の団体とは違う団結力、節度、縦割りの人との関係などが幾分身につけていると思う。

試合中は興奮して言い合っても、後で互いに謝り何もしこりを残さない。見ていて気持ちよかったです。自分も消防団員として二十年近くになりますが、消防団を通じて地域の色々な人達と交わられたことを喜びに感じています。

区分	平成9年	平成8年	
出火件数(件)	建物	67	60
	林野	4	4
	車両	19	21
	船舶	0	0
	航空機	0	0
	その他の	57	57
	爆発	2	1
計	149	143	
主な原因	放火及び放火の疑い	50	22
	たばこ	16	22
	こんろ	10	8
死傷者	死者	3	6
	傷者	20	24
火遊び	7	8	
損害額(千円)	848,239	413,768	

分団活性化余談

第二十二分団 分団長 後藤和紀

この様な文章を投稿したのは自分や分団の自慢をするためではなく、常日頃考えていることを単純に筆にただけです。誤解しないでネ！分団の活性化には色々な施策が考えられますが、その中でも分団の新陳代謝は不可欠です。即ち団員の確保が再重要な課題といえます。

腐った果実が一つあると周りもすぐ腐るとえの様に、やる気の無い団員がいると分団のムードが沈滞します。補修ができれば取り除く他はありませんが、その団員も地域の住民であり、消防団のOBとなるわけです。それが大事な事です。本人との話し合いで納得してもらい気持ち良く退団する。この様な形が理想だと思います。

出初式に想う

第十分団 団員 影島清五



今年も一月第二日曜日が近づいてきた。出初式の日だ。天気予報では雨が降ると言っている。その時一瞬心のなかではほほ笑んだ。雨が降ると外での出初式は無いかもしれない。と思う反面、やはり寒い外で行なうのが出初式らしくていいのかなと思う様になってきた。そして当日、雨は降らないがやはり寒い。しかし、頬を冷たい風が刺す時、出初式に参加しているんだと実感する瞬間でした。式典が始まり、いろいろな表彰が紹介され授与され、立派な団員が多くいることに驚きました。又、家族の協力のうえ成り立っている事への証だと思いました。

この様な出初式を多くの市民の方々にもっと見てもらい、これからも消防団に理解と協力をして頂きたいと思えます。

想だと思えます。

しかしながら、補充団員がいないとなかなか勇断は出来難いと思えます。

団員確保のために具体的にどうすべきか、このテーマだけでも分団どうしが話し合いを持つ価値があるといえます。

余談になりますが、毎年、富士山の勇姿が素晴らしい年末から年始にかけて思い出されるのは、丘小学校の先生と子供達との出来事です。

五年前の秋、四年生の社会科の授業の一環として消防団の見学に来た事がありました。教諭が何名かの児童と分団詰所の見学に見え、色々な質問を受けました。その後、同じクラスの全児童から追加の疑問点や激励の手紙をもらいました。それを受け、三人程の団員が返信しました。

後で聞いた話ですが、団員からの手紙を教室で披露していた先生が、その文面に感動し、声を詰まらせ涙を流しながら読み終えたとのこと。勿論、聞いていた子供達も全員が声を出して泣きました。

この話を思い出す度に心が洗われる思いがします。

人には必ず善意があります。この子供達だけでなく地域を見渡せば必ず消防団に共鳴を持つ若者がいるはず。分団からの誘いを待っている青年が必ずいます。そう信じて新人発掘に精を出すつもりでいますし、皆さんも頑張ってくださいと思います。企業も地域も、その原動力は人です。消防団も同じく人が原動力です。各分団の皆さん、明日の消防団を目指して元気に頑張ろうではありませんか。

入団五年間を振り返って

第十三分団 団員 柴田博行

私が十三分団に入団して早いもので五年間が過ぎました。

消防団活動は会社員としての日々の仕事もあり大変ですが、できる限り参加するようにしています。訓練大会や火災期特別警備などのつらい活動も多いのですが私なりに楽しく取り組んでいます。

「なぜ、楽しく活動できるか？」というところ、それは十三分団の雰囲気の良いところが上げられると思います。各々仕事を離れ、地域社会に貢献するというボランティア精神で結びついているので、自然に雰囲気の良いようになっていくのだと思えます。

年齢に関係なく人生の先輩からいろいろなことを学び、そして大いに語り合う機会は消防団に入らなければわからなかったことでは無いでしょうか。

「人と人の和」は十三分団の伝統であり一番素晴らしいことだと思えます。

この素晴らしい消防団活動を後輩に伝えるために、多くの新人を入団させることが、五年を経過した私に与えられた使命であると思えます。

全国統一防火標語

全国統一防火標語は、財団法人日本損害保険協会が消防庁との共催で、毎年防火意識の啓発を一般に広く呼びかける目的で全国から募集して、その中から入選作品を決めます。

(昭和六十年から現在までの作品)

- 昭和六十年度 「消したつもり」と
- 昭和六十一年度 「消えたはず」
- 防火の大役 あなたが主役
- 昭和六十二年度 もう一度消えたかな！ 気になるあの火
- 昭和六十三年度 その火 その時 すぐ始末！
- 平成元年度 おとなりに あげる安心 火の始末
- 平成二年度 まず消そう 火への鈍感 無関心
- 平成三年度 毎日が 火の元警報 発令中
- 平成四年度 点検を 重ねて築く // 火災ゼロ
- 平成五年度 防火の輪 つなげて広げて なくす火事
- 平成六年度 安心の 暮らしの中心 火の用心
- 平成七年度 災害に 備えて日頃の 火の用心
- 平成八年度 便利さに 慣れて忘れる 火のこわさ
- 平成九年度 つけた火は ちゃんと消すまで あなたの火

来たれ！ラッパ隊

第二十五分団 団員 久保田 道雄

「気をつけ！」出初式の第一声、号令とともに鳴り響くラッパの音。ドソンド・ドミソソ空を貫くそのラッパの響きを奏する時の心の引き締まる一瞬、その一瞬に喜びを感じる。

「我が分団からもラッパ隊員を」の分団長の一言から私に白羽の矢がたった。「ラッパ隊か…。格好良いなあ。でもラッパなんか吹いたことないぞー。それに分団の活動の方はどうなるんだろう。仲間といつも一緒だったのに、なんだか放り出されるようでさみしいなあ。」いろいろ悩んだ結果、しぶしぶ引き受けた形形でしたが、今から思えばこんなに張り合っている事をやらせてもらえ、とてもありがたい事だと思っています。入隊したのが平成四年一月一日でした。すぐに出初式という大イベントを控えた現実に直面して、ラッパ隊は特別訓練に入っていました。



サッカーサッカーとしか音が出ず、真っ赤な顔をしている私を先輩たちは優しく見守り、受け入れてくれ、「出初式の時には、規律だけはしっかり

消防団に入っ

第二十六分団 団員 望月 誠

平成九年三月に第二十六分団に入団し五カ月がたちました。五月に新入団員教育を受講し四十名程での規律訓練は、学生時代を思い出ししました。団体活動で一人でも外れた行動をすると、その団体はまとまらなくなり最後まで結果が出なくなっ

まいます。指導員の方はピシッとして訓練しているなと感じました。査閲大会にしても忙しい時間を割いて集合し、繰り返し訓練をしました。徐々に選手の息があつてきて、きびきびした動きは見ていて気持ちよく、自分にもできるかなと思

やれよ」と励まされ、隊列に加えてもらいました。そんな緊張感が良かったのか、出初式写真コンクール市長賞に私のラッパを構えた姿が選ばれ、ちよつと、恥ずかしくなったのを思い出します。

しかし、週に一度の訓練では、とても上達するまでにはいかず、このままではと思つていたとき、当時の副隊長だった斎藤さんが、「個人練習ならいつでも付き合おうよ。」と言ってくれ、詰所で個人練習をするようになりまし。この練習がなかつたら、私のラッパは一生鳴らずに終わってしまったことでしょう。

ラッパ隊は、今年創設十周年を迎えます。月日の経つのは早いもので、私も、初代隊長高田氏、二代隊長河合氏のもと六年間ラッパ隊員を勤めています。現在の隊員は二十一名で定員の三十名にはまだまだ足りません。我々は仲間を求めています。私達と一緒にラッパを吹いてみませんか。我こそはと消防団員になった時のように。

ました。団員のチームワークは仲良くなることからと感じ、ソフトボールの練習に週に一回ぐらい参加し、いい汗かいて楽しくまとまっています。んじゃないかなと思ひました。

実際、火災現場でも日頃の訓練とチームワークで、素早い消火活動ができると思ひます。火災には四回出動しました。出先から火災現場にいったこともあります。消防団に入った以上責任をもって消防団活動や、あらゆる方向に役立ちたいと思ひます。

父の消防団活動について

廣岡中学校 二年 第二十四分団 家族 鈴木 清元

冬になると、父の夜の外出が多くあります。それは、冬は火事がとても多く発生する時期だからです。火事はいつおこるか分かりません。真夜中におこることだってあります。

そんな時、父が急いで起きて出かける姿には、とても感心します。父のやっていることは、とても素晴らしいと思ひます。

人のためになにかやるという事は、口では簡単に言えますが、実際に行動に移す事は大変なことです。父が消防団活動を続けているのは、たぶんただ自分が働いて利益になる

ことをするだけでは味わえない、人を助けた時の喜びがあるからだと思ひます。

だからぼくは、こんな父の生活の一面からいろいろな事を学んでいます。やっぱり人は思いやりの心が第一だと思ひます。人を思いやってあげれば、きっといつかは自分にも思いやりが返ってきます。そこではじめて自分は今までやってきてよかったという実感を味わう事ができるのだと思ひました。

だから父にはこの消防団活動を続けてほしいと思ひます。

平成10年消防出初式 写真コンクール市長賞 題名 美姿 氏名 佐藤 和子



消防団活動を通して

第二十分団 団員 町田浩章

私が消防団に入団して早いもので四年半が過ぎようとしています。

入団二年目で小型ポンプ操法に出場し、そして、今大会ではポンプ車操法に出場しました。

大会当日に至るまでの約三ヶ月間の訓練では、いろいろな出来事とともに、「消防団とは何か。」と自問自答する機会を与えられたように思います。

私が消防団に入団したきっかけは、私の住んでいる地域に入団の割り当てがあったことと、その時の会議の

防火協会会長賞

消防団のお父さん

富士南小学校 六年

瀧澤 将美

ぼくのお父さんは、第二十六分団に入っています。ふだんの仕事は、ダンプの運転手をしています。近くの地区で火事があつた時は、急いで着替えて、つめ所に向かいます。

お父さんが、消防団に入ったのは宮下から引っこしてきた時に、浜添の区長さんにすすめられたのがきっかけだそう。ぼくが赤ちゃんのころなので、もう十年ぐらい消防団の仕事をしています。

火事は、いつ起きるかわかりません。家で休んでいる時とか、寝ている夜中にもあります。広報でとび起きて、すぐに着替えて、一分もしないうちに玄関から出て行きます。寒

何とも言い難い雰囲気を開するために自分から立候補して入団しました。

消防団へ自ら進んで入団する人が本当にいるのだろうかと思いつつ今日まで活動をしてきましたが、最近その解答が自分なりに得られたように思います。

「消防団とは何か。」新たに考え直した自分自身の解答は、消防団という奉仕活動を通じて得られる地域の人との出会いと融合であると感じます。

富士市防火協会が市内の小・中学生から募集した平成九年度防火作文には七十六点の応募がありました。その中で小学校の部、防火協会会長賞に入賞した作品を掲載します。

い時も、雨が降っている時も、火事で困っている人のために、火を消しに行きます。

今年、十五回ぐらい出動しました。一度家を出て行くと、二時間ぐらいしないと帰ってきません。だから、ぼく達家族は、「ただ今の火災は、ちん火しました。」という広報が流れると、ほっとします。でもお父さんが帰ってくるまでは、「お父さんは、だいたいようぶかな?」けがをした人は、いないかな?と、とても心配です。お父さんは、出動から帰って来た時は、とても疲れた顔をしています。ぼくは、命がけて、火を消し止めているからだとおもいます。

また、お父さんは、富士市以外の

そして、市訓練大会を通して、選手同士はもとより、我々をバックアップして下さる分団員、更に、我々を指導して下さる指導員の皆さんと接する事で、この私自身の思いは、確信されました。

消防団に携わる人達は、皆、自身の確信と相違があるとしても、志す到達点は、消防団の目的とする

「地域の皆様の財産と安全を守る」を心のどこかに秘めながら各人の確信を持って活動していると痛感いたしました。

きれいなことを言いましたが、自身自身の心の洗練をする情熱を消す事なく、火災は、すばやく消すように心掛けて行きたいと思えます。



所に行く時は、「火事が起きないといいなあ。」と言います。火事になって、出動できないからです。いつも、火事のことを気にかけています。火事になると、今まで住んでいた家に住めなくなったり、工場で仕事ができなくなったりして、困る人がたくさんでくるからです。

だから、ぼくの家では、火事にならないように、出かける時や夜寝る時は、必ずガスの元栓を閉めます。食事の仕度をしている時には、絶対に火のそばから離れないようにしています。

ぼくは、お父さんが、地区の代表として、みんなのために活やくしています。仕事をどんなに疲れていても、欠かさず出動します。また、火事の時だけでなく、火災予防運動の時には、火事に気をつけるように、南地区をすみからすみまで周りなが

消防団の主要行事

- ▽辞令交付式 四月一日
- ▽新入団員教育 庶務講習 五月
- ▽幹部研修 機関員講習 六月
- ▽特別健康診断 八月下旬
- ▽総合防災訓練 九月一日
- ▽分団長行政視察 十月
- ▽団員ソフトボール大会 十月十八日
- ▽団本部行政視察 十一月
- ▽秋季火災予防運動 十一月九日～十五日
- ▽消防まつり 十一月十五日
- ▽静岡県消防大会 十一月小笠支部
- ▽火災期特別警備 十二月二十日
- ▽家族協力推進懇談会 二月
- ▽春季火災予防運動 三月一日～七日

団員募集

今、若い人の力を消防団は求めています。
消防団に入団するには、地域の消防団員または町内会長、区長さんに申し出て下さい。

編集後記

皆様から多数の原稿を頂き、第八号を発行できたことに、あらためて御礼申し上げます。

- 富士市消防団広報紙編集委員
- 委員長 第三方面隊長 佐野 和雄
 - 副委員長 第十分団分団長 鈴木 敏郎
 - 委員 第二十五分団部長 青柳 唯一
 - 委員 第十二分団副分団長 長尾 文彦
 - 委員 第十三分団員 千葉 和男
 - 委員 第十六分団員 白井 浩司
 - 委員 第二十二分団員 大村日出生

原稿募集

消防団広報紙編集委員会では次回の原稿を募集しています。
○枚数 四百字詰原稿用紙一枚程度
○問合せ 消防団広報紙編集委員会 又は、消防本部管理課
○締切り 十月末日